

2022年3月理事会議事録

日 時：2022年3月26日（土）14：00～17：40

場 所：日本考古学協会事務所・オンライン会議

出席：辻 秀人・佐古和枝・佐藤宏之・足立佳代・植田 真・臼杵 勲・大塚昌彦・岡林孝作・亀田直美・河村好光・小菅将夫・惟村忠志・滝沢 誠・田尻義了・谷口 榮・寺崎秀一郎・時枝 務・中嶋郁夫・中山誠二・萩野谷 悟・馬淵和雄・溝口孝司・宮里 修・高麗 正、監事：都築恵美子・橋本裕行、（事務局：林 純子・近藤絵里奈）

進行：田尻義了

議長：辻 秀人

田尻理事から、本日の出席者は26名（うち理事24名）で過半数に達しており、本理事会が成立することが報告され、議事に入った。

会員の訃報について

中嶋理事から、埼玉県の中島 宏会員が2022年1月7日、東京都の小西紳也会員が2月12日、山梨県の萩原三雄会員が年2月19日、山口県の中野孝之会員が2月21日、青森県の瀬川 滋会員が2月27日、福島県の高松俊雄会員が3月1日に亡くなられたとの報告があり、哀悼の意を表した。

議案第664号 退会会員の承認について

中嶋理事から、岩手県の*会員、宮城県の*会員、茨城県の*会員、栃木県の*会員、群馬県の*会員、埼玉県の*会員・*会員・*会員・*会員、千葉県の*会員・*会員、東京都の*会員、神奈川県*の*会員・*会員、長野県の*会員、大阪府の*会員、兵庫県の*会員、大分県の*会員、鳥取県の*会員、山口県の*会員から2021年度をもつての退会届が提出されている旨の報告があり、承認された。なお、未納会費のある会員については、引き続き滞納会費の納入を求める。

また、賛助会員（学生会員）の*会員が、卒業により学生会員の資格を喪失することから退会となる旨の報告があり、承認された。

議案第665号 2022年度予算の承認について

辻会長から、今年度からの繰越額を除いた収入予定額に対し、各事業・委員会の予算要求額が超過しており、会員数の減少によりコロナ禍収束後には赤字となる可能性が想定される。そこで、財務会議において予算要求の見直しを行い、2022年度予算案は、①刊行物の予算額を近年の落札額に近似した金額とし、不足する場合は予備費を活用する、②各委員会の会議においてはオンラインを活用し、旅費を削減する、③アジア四学会合同講演会の予算は昨年に他学会との負担額の差について改善を要求したが、改善が見込めなかったことから予算要求を認めないこととした、との説明があった。

続けて萩野谷理事から、増額した事業について、①総会・大会の会場費や学生のアルバ

イト代の必要性等の現状に即して、各実行委員会への委託費を50万円増額し150万円とし、その他にオンラインで配信する際の業者委託費用を別途設けた、②協会事務所の会員管理システム搭載パソコンの交換を予定している、③アーカイブス小委員会の事業として協会刊行物のアーカイブ化の委託を予定しているとの説明があった。また、特別会計の科学研究費補助金については、収入予定額390万円に対し、予算要求も適切と判断されたため予算要求通りとしたとの説明があり、審議の結果、原案通り承認された。

なお、アジア四学会合同講演会については、他学会との調整も含めて改めて再検討が求められた。

議案第666号 第12回日本考古学協会賞の選考結果の承認について

佐藤副会長から、3月13日（日）に第12回日本考古学協会賞選考委員会を開催し、①応募のあった11件の審査を行った結果、大賞に岩本 崇氏『三角縁神獣鏡と古墳時代の社会』、奨励賞に丸山浩治氏『火山灰考古学と古代社会—和と噴火と蝦夷・律令国家—』、及び福永将大氏『東と西の縄文社会—縄文後期社会構造の研究—』の2件を選考した。②優秀論文賞については、機関誌『日本考古学』編集委員会から『日本考古学』第51号に掲載された榎田朋広氏「擦文文化前半期の集落群構成と動態」、及び英文機関誌編集委員会から『Japanese Journal of Archaeology』Vol. 8, No. 1 に掲載された高瀬克範氏「Time period determination of the Kuril Ainu's major withdrawal from Kamchatka」の推薦があり、受賞にふさわしい旨を確認したとの報告があり、審議の結果、原案通り承認され、第88回総会で表彰されることとなった。

議案第667号 2022年度永年在籍会員の顕彰に関わる対象者の承認について

佐藤副会長から、表彰される総会時で50年在籍している正会員の顕彰を、「会員の顕彰に関する内規」第2条第1号に則り、第88回総会で1973年度入会者43名を対象に行いたいとの説明があり、原案通り承認された。

議案第668号 埋蔵文化財保護対策委員会の新委員の承認について

馬淵理事から、全47都道府県の2022～2023年度の委員名簿が提示され、原案通り承認された。なお、文化財が多いにもかかわらず委員数が1名の県については、追加選任が求められた。

報告第867号 高輪築堤消滅危機についてのイコモス警告を支持する会長声明について

辻会長から、1月28日に国際記念物遺跡会議（イコモス）から高輪築堤についての「遺産危機警告（ヘリテージ・アラート）」が発出されたことを受けて、2月22日付で「高輪築堤消滅危機についてのイコモス警告を支持する」会長声明を発出し、日本イコモス国内委員会の記者会見後にオンラインで記者会見を行い、改めて事業計画の見直しを求めたとの報告があり、了承された。

報告第868号 2021年度賛助会員等学習会・懇談会について

滝沢理事から、賛助会員の学習会・懇談会として1月25日（火）に栃木県上侍塚古墳と

その周辺の見学を予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、今年度は中止とした。なお、上侍塚古墳の見学については、調査の継続が計画されており、次年度に改めて行う予定であるとの説明があり、了承された。

報告第869号 第2回理事選挙管理委員会の報告

大塚理事から、2月12日（土）に第2回選挙管理委員会を開催し、①届出書類及び選挙公報の確認、②投票の呼びかけチラシの作成、③開票作業の手順・方法を確認したとの報告があり、了承された。

また、日本考古学協会規則の理事選挙に関わる条文が改定されたことを受け、総会時の議案「理事の選任について」の手続きは、選挙管理委員会委員長による選挙結果の報告後、会長が理事候補者を提案することが確認された。

報告第870号 カフェde考古学第1回「高輪築堤の発掘調査とその意義」の成果

足立理事から、2月12日（土）にカフェde考古学第1回「高輪築堤の発掘調査とその意義」を、55名の参加を得てオンラインで開催したとの報告があった。当日のZoomの設定に手間取り開始が遅れたが、講師の谷川章雄・早稲田大学教授からは気取らない雰囲気良かったとの意見をいただき、今後の課題としては、司会とチャットへの質問事項の確認者を分けた方がよい点が挙げられた。

報告第871号 会費高額滞納者への催促と結果状況報告

高麗常務理事から、1月理事会で各理事に分担して3万円の高額滞納者への督促をお願いしたところ、24名から会費の入金があり、未納者には引き続き事務局からも再度連絡を行ったが、9名はまだ連絡が取れていないとの説明があった。

報告第872号 各委員会等における2021年度会議等報告について（その7）

1 埋蔵文化財保護対策委員会幹事会の報告

足立理事から、1月15日（土）及び2月13日（日）に幹事会をオンラインで開催し、①港区高輪築堤跡について、発掘調査の進捗状況が確認され、開発計画が未公表の5・6街区については引き続き保存を要望していく。また、高輪築堤のシンポジウムを4月16日（土）にオンラインで開催することとし、チラシ等を作成して広報に努める。なお、シンポジウムの録画配信案については著作権の処理が必要であり検討が必要である。②広島市広島城跡（サッカースタジアム建設予定地）について、これまでの経緯を鑑みて遺憾の意の表明等を次年度以降に行う予定である。③出雲市大社基地跡について保存は難しいものの活用を検討していく。④徳島市徳島城跡隣接地及び安芸市瓜尻遺跡について、それぞれ1月21日に保存要望書を提出した。⑤第88回総会時に実施するセッション及びポスターセッションについて協議した。⑥3月2日（水）に文化庁との懇談を対面とオンライン併用で実施し、近現代遺跡の取り扱いや遺物の収蔵問題、遺跡の鳥獣被害、地方自治体における専門職員の減少等について意見交換を行ったとの報告があり、了承された。

2 新入会員資格審査に関わる意見についての報告

中嶋理事から、「正会員入会資格基準に関する内規」の解釈及び運用について、一部委員・理事から正会員の入会資格審査の業績に係わる意見があり、入会資格審査委員及び担当理事にアンケートを行った結果が提示され、今後の課題として検討が必要であるとの説明があり、了承された。

3 機関誌『日本考古学』編集委員会報告と今後の企画方針

大塚理事から、①2月19日（土）に委員会をオンラインで開催し、i）第54号の掲載原稿状況について確認した。ii）編集委員2名の任期が満了となるため、新委員候補者を選考した。iii）投稿論文の査読依頼方法について協議したことが報告された。また、②3月19日（土）に会長・両副会長及び担当理事で、機関誌への投稿数が減少傾向にあることから、現状確認及び今後の方針について改善案の意見交換を行ったとの報告があり、了承された。

4 研究環境検討委員会報告と提言について

亀田理事から、1月23日（日）及び3月5日（土）に委員会をオンラインで開催し、①委員会で担当する12月10日（土）開催のカフェde考古学第6回の内容について協議した。②研究倫理部会の矢島國雄部会長から、2月22日に博物館法改正について閣議決定されたとの情報提供があり、今後の委員会の検討課題となる可能性もあることから注視していく。③第88回（2022年度）総会時のポスターセッションで提示する、これまでの成果を取りまとめた委員会からの提言について検討したとの報告があった。

続けて、その研究環境検討委員会からの提言の概要について説明があり、考古学関係機関、専門職員を輩出する機関、考古学に携わるすべての人に向けて、後継者育成をめぐる現状認識と課題を共有し、実践的な活動の検討に進みたい旨が説明された。提言のタイトル及び内容について各理事から意見が出され、一部再検討が求められた。

5 災害対応委員会の報告

田尻理事から、1月18日（火）に委員会をオンラインで開催し、①2021年12月3日（金）の文化遺産防災ネットワーク推進会議に菊地芳朗委員と田尻理事が、12月8日（水）の文化財防災センター事業報告会に菊地委員が出席し、会議内容について情報を共有した。②今後の委員会体制について協議したとの報告があり、了承された。

6 アーカイブス小委員会の報告

谷口理事から、3月12日（土）に小委員会を対面で開催し、①2HDや2DD、M0等の電磁的記録資料の内容等を確認、整理を行った。②今年度の刊行物のデジタル化作業の進捗状況を確認した。③会員カードのデジタルデータ化については、データ化の前に整理が必要なことから、次年度から整理作業を行うこととした。④2022年度の実施事業の検討を行ったとの報告があり、了承された。

7 陵墓の報告

岡林理事から、①事前調査見学が2月3日（木）に叡福寺北古墳（聖徳太子磯長墓）で

実施され、13学協会14名が参加し、当会からは佐古副会長が参加した。②本年度の立入り観察が2月18日（金）に、白髪山古墳（清寧天皇河内坂門原陵）を対象として実施され、13学協会13名が参加し、当会からは岡林理事が参加したとの報告があり、了承された。

8 社会科・歴史教科書等検討委員会の報告

小菅理事から、3月12日（土）に委員会をオンラインで開催し、①小学校教科書内容について、改善案の教科書会社への提案を検討している。②中学校教科書の古墳時代の記述について比較・検討を行った。2022年度大会のポスターセッションでこれまでの中学校教科書の検討の成果をまとめる予定である。③小学校における旧石器時代を題材にした授業実践について、教科書会社の雑誌等への投稿の可能性を探るとの報告があり、了承された。辻会長から、主目的である旧石器時代の教科書掲載について重点的な検討が求められた。

9 広報委員会の報告

足立理事から、2月10日（木）に委員会をオンラインで開催し、①3月刊行の『会報』No.205の進捗状況の確認、②アウトリーチ活動への広報としての協力について、③「高輪築堤消滅危機についてのエコモス警告を支持する」会長声明のプレスリリースについて、④新年度の広報委員会の体制について協議したとの報告があり、了承された。

報告第873号 2022年度第88回総会の日程・実施方法及び理事の役割分担と総会説明内容について

田尻理事から、開催方法について、第87回（2021年度）総会と同様に1日目の総会は会員の会場参加可とし、オンライン配信は視聴のみで発言はできないこと、2日目は関係者のみ来場可の方法とすることが確認された。続けて、田尻理事及び寺崎理事から、第88回総会日程と進行、及び理事役割分担案の説明があり、総会時の各報告担当理事に4月26日までの説明原稿の作成が依頼された。また、ホームページに掲載する登録フォーム案が提示された。高校生ポスターセッションは、2日目のコアタイムにポスター説明及び質疑応答を行い、終了後に審査を行うとの説明があり、了承された。

報告第874号 2023年度第89回総会について

田尻理事から、第89回（2023年度）総会は東海大学に開催を引き受けていただいたとの報告があり、了承された。

報告第875号 正・副会長の後半期の総括報告

佐古副会長、佐藤副会長及び辻会長から、定款第24条第3項の定めにより、それぞれ2021年度後半期の各種事業・会議の参加等、職務執行状況について報告があった。

報告第876号 観光考古学会シンポジウム「品川区の文化資源と文化観光」に関わる後援名義使用の承認について

高麗常務理事から、観光考古学会から3月19日（土）開催のシンポジウム「品川区の文化資源と文化観光」について、名義後援の依頼があり、名義の使用を承認したとの報告が

あり、了承された。

報告第877号 日本学術振興会賞候補者の推薦について

高麗常務理事から、日本学術振興会から第19回日本学術振興会賞候補者の推薦依頼があり、総務会での協議により溝口理事に推薦を一任したことが報告され、続けて溝口理事から候補者推薦の準備を進めているとの説明があり、了承された。

その他

1 世界考古学会議声明の情報共有について

溝口理事から、溝口理事が会長を務める世界考古学会議では、「ウラジーミル・ウラジーミロビッチ・プーチン大統領の命令によるロシア連邦国軍によるウクライナ侵攻について」の声明を発出し、ホームページで掲載していることが案内された。

以 上